

るという考え方からきているものである。

昭和45年以降、蒲郡地区、大塚地区の埋立が完了すれば、ここは東三河臨海工業地帯の一翼として、軽工業部門をにない、蒲郡港はこの地域の唯一の商港としての機能を果たすようになり、重商都市としての発展が期待される。それと同時に、東三河臨海工業地帯、中京工業地帯のインダストリアルパークの役目を果たす都市としても発展することであろう。

御前崎地方の地理的性格に関する 考察(要約)

長松 睦子

この卒業論文の目的は、ある一地域を選び、その地域の持つ性格を明らかにすることである。3年間に習得した知識や方法(といつても、4年になつて卒業論文を書きはじめたからといって身につけた知識や方法とかなり多いのであるが)を総動員して調査を行い且つそれをまとめるのであるから、卒業論文は、いわば、総しめくり的な勉強であり又総合的な練習であると言える。私はさういつた勉強の場として御前崎地方を選んだ。理由は、この地方が色々な問題点を含んでいると思つたこと。比較的東京に近いこと、先輩の方々の調査地域にとれてきたことなどである。

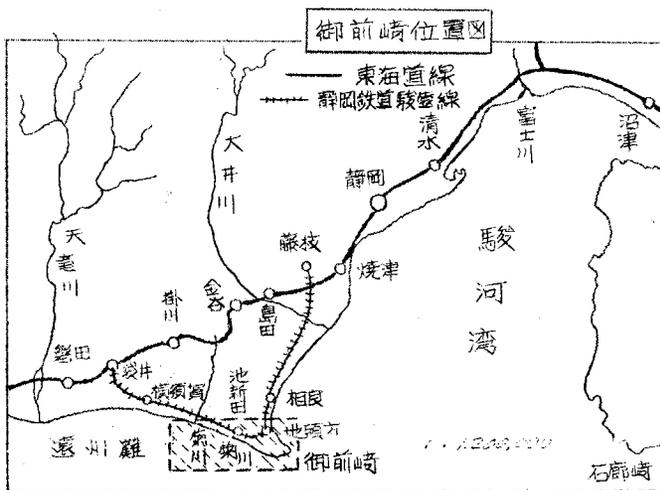
構成及び大まかな内容は次の通りである。
序文、地域選択の理由、着眼点、扱い方補え方。

第一章 自然概観

① 自然的な位置 ② 気候 ③ 地形、地質 の三節につき、御前崎地方を中心に考察。

第二章 地形区分

地形調査は御前崎から菊川に至る遠州灘沿岸地域について行った。周囲の地形との関連のもとに調査した方がより正確にわかりやすく、御前崎地方の地形が理解できると思つたか



らである。

§1. 各地形面の説明 現地調査及び空中写真により作成した地形分類図を中心に各地形面について記述。

§2. 御前崎海蝕台地 御前崎地方の中心的な地形面である御前崎海蝕台地についてこの節で更に説明を加えた。

§3. 地形形成の順序、各地形面の対比を行うということが、本来の目的ではないので、私が行った程度の現地調査のみで明らかになるようなごく大まかな順序について考えてみた。

オ三章 人文環境概観 人文現象の基礎としての自然環境を多少折りこみつゝ、この地方の人文環境を概観した。

§1. 御前崎地方の厂史的考察 主としてこの地方の集落発生及び開発の厂史について、

§2. 現状の大要、御前崎地方の中心をなす御前崎町について人口、行政界、産業構成などを中心に現状のあらましを述べる。

§3. 土地利用 現在の土地利用を説明し、そこにあられるこの地方の特色に言及。(例えば岬としての性格があらわれている土地利用など)。土地利用図を使用。

§4. 交通立地的環境 御前崎地方は東海道線から丁度ポケット状にとりのこされている点からまことに交通立地的環境がわるく、各産業に不利になつている。

オ四章 産業活動 この地方の主産業である漁業及び農業と面首の結合関係についてこの章で考察を加えた。

§1. 漁業 沿岸漁業とそれに伴う水産加工業、水産養殖業について
I) 厂史 II) 現状 を記述する。

§2. 遠洋漁業 この地方で最も特色ある産業である遠洋漁業について各方面から考察を加え、この地方の有する諸要素が、どんな形で漁業に反映しているかを記述。

I) 発展の自然的・人文的條件

II) 御前崎遠洋漁業の現状と特色

III) 経営組織—これについては清水遠洋漁業協同組合の実例をあげた。

IV) 問題点

§3. 農業 この地方の農業を現状を中心にしてごく大まかに把握した。

§4. 漁業と農業の關係、新谷、薄原、西側、大山、女岩の五部落を実例にして、漁業と農業とがこの地方でいかに結合しているかをのべて努力力

の配分などを中心にして)あわせて漁業が存在するが故に農業がどんな特色を有しているかを述べた。

結 論、漁業中心の地域性

以上のように自然、人文環境を考察し更にその上に展開する産業活動に目を向けてきたのであるが、それにより明らかにされたと思われる御前崎地方の漁業を中心とする地域性を不完全ながらまとめてみた。ごく簡単に云えば、御前崎地方は御前崎遠洋漁業従事者の *Bed Town* 的役割をしているということができると思う。

この性格は、この地方の遠洋漁業が大資本のよとにいとなまれるものではなく、伝統的な地方資本及び地元労力による中企業的漁業であるという特色や、この地方の交通立地的環境によつてとたらされるものであることは勿論であるが更に御前崎地方が駿河湾岸の一連の漁業地帯に含まれていることによつてと考えられる。

つまり、根拠地とし得る漁港や水産都市の比較的近くに存在しているため、現在のような形の漁業が存在を続けられるのである。御前崎地方は以上のような特色ある遠洋漁村としての地域性を有するのである。

(以上)

広島県芦田川中流及び下流沖積地の 地理学的考察

延岡 和子

論文の構成は次の様になつている。

第一章 調査地域の概説

- I. 自然環境
 - Ia 位置、交通
 - Ib 地形
 - Ib1 地形概説
 - Ib2 地形細説
 - Ic 地質概説
 - Id 気象
 - Id1 気温
 - Id2 風向及び風速
 - Id3 降水量
- II. 人文
 - IIa 福山藩の新田開拓
 - IIb 福山臨海工業地帯整備事業
 - IIc 干拓地に成立する農業

—— 福山市川口農協地区 ——